SHITARA DAM

設楽ダムだより

第145号
未来につなぐ
特集号
2022.10

Connect to the future

未来につなぐ

let's enjoy camping!

GP CAMP
TSUGUKOGEN GREEN PARK
SINCE 1980

www.green-park.net/

道の駅の賑わいを未来の設楽町にも伝えていきたい

―道の駅したら駅長 船井美紀さん　アグリステーションなぐら駅長 原田理さん　つぐ高原グリーンパーク駅長 原田茂昭さんに聞く

昨年5月に「道の駅したら」がオープンし、現在、設楽町には、「アグリステーションなぐら」「つぐ高原グリーンパーク」を合わせ計3つの道の駅が整備されています。ダムをきっかけとした観光振興にあたり、今後さらに存在感を増す道の駅。3人の駅長にそれぞれの役割と特色、道の駅同士の連携、ダムのある将来に向け道の駅がどうあるべきかについて、お話を聞きました。

道の駅したら 船井美紀駅長

私は縁の下の力持ち「チーム」力を最大限に生かすのが役目

「道の駅したら」のオープン1周年を機に、町長から駅長を引き継ぎました。おかげさまで多くのお客様に来ていただき「愛知道の駅ランキング」では1位、今年の来場数もオープンしたての昨年とほぼ同じか、それ以上で推移しそうな見通しです。

この賑わいの原動力となっているのは、なんといってもスタッフの力だと思います。新城側の玄関口に位置するこの道の駅は、"ここからいかにお客様を設楽町のさらに上へと引っ張り上げていくか"が役割だと思っています。その点観光協会が入っていますから、お客様のご要望にワンストップでお応えして、設楽町の素晴らしさをお伝えすることができる。これはすごく大事なことだと思っています。

また、住民の方から「道の駅でこんなことやらない？」というご提案をよくいただくんです。そんなときも観光協会さん、テナントの関谷醸造さん、つぐやさんが積極的に受け入れてくださるんです。協会やテナントの皆さんからも道の駅を盛り上げるためのアイデアを具体的に提案してくださいますし、新しいお客様を呼び込んでくれています。

とにかく設楽町が好きで、元気にしたいという方が集まっているんですよね。「私、いらないんじゃないの？」って思うくらい（笑）、全員がプロだしコミュニケーション能力も高い素晴らしいチームだと思います。

「道の駅の賑わいが設楽町全体の経済や人の流れなどにいい意味で波及していくといいなと願っています」と船井駅長

「道の駅の中で一番好きなのが晴れた日の午前中、郷土資料館のガラスの壁面に映り込む設楽町の風景。雲が動いていく様子などはまるで自然のプロジェクションマッピング」

道の駅内のレストラン・清嶺食堂のオススメメニュー。「経営する『つぐや』さんが地元の食材を使ったオリジナルのメニューを開発してくれていますので、ぜひ味わってほしいです」

たとえば「お米」をキーワードに他の道の駅と連携できたら

ここでお客様を招き入れ、いずれ完成するダムを含めて町内を見て回ってもらい、他の道の駅にも立ち寄って周遊ができる…玄関口である「道の駅したら」の役割として、そういった仕組みもできるといいなと思っています。その意味でも設楽町内の道の駅との連携は、今後考えていきたいテーマです。

たとえば、この道の駅のコンセプトでもある「お米」をキーワードに連携できないかなと。お米が原料の五平餅は他の道の駅でも味の違うものを提供していて人気ですよね。道の駅でコラボして五平餅の食べ比べツアーなど、やってみたいなと思っています。

アグリステーションなぐら 原田理駅長

「農を主体とした道の駅」として名倉地域の農家さんが設立に尽力

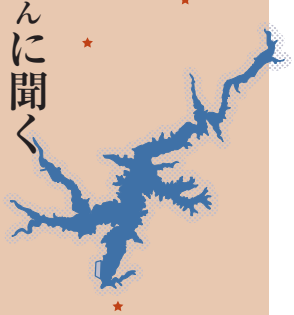
この道の駅の特徴であり、設立からのコンセプトは、「農を主体とした道の駅」ということですね。「agriculture（農業）」と「station（駅）」を合体した駅名は造語なんですが、コンセプトを体現したものです。

名倉地域はもともと農業が盛んで、農作物を自ら販売する場をつくろうとしたのがこの道の駅の始まりでした。地元の農家さんが出資して設立した「名倉高原生産組合」が運営しています。指定管理者制度を取らず、したがって町からの管理費を受けず自らが運営するという強い意志のもとにつくられたという点では、あまり例がない道の駅かもしれません。

こだわっているのは「地場産」と「手作り」

この道の駅では地場産の農作物を売りに

そのためにも、「道の駅したら」のこの賑わいがダム完成後もずっと続くように努力していきたいです。「あの頃は人がたくさん来ていたね…」という風にならないように（笑）、これからもチーム一丸となって、ともに「道の駅したら」を盛り上げていきたいですね。



すること、食堂で地元の食材を使った手作りの食事を提供することを運営の二本柱にしています。その一例がエゴマですね。人気商品のエゴマだれの五平餅をこの道の駅の看板商品にするために、地域をあげてエゴマの増産を進め、美味しい五平餅にするために試行錯誤しました。今ではエゴマというと結構有名ですけど、当時はどこもやっていなかったんですよ。食事のメニューにしても食材は基本的に地場産、手作りにこだわっています。食堂のスタッフも地元の人。地元に雇用を生み出すこと、地場の農産物を提供することで地域の農業所得をあげていくことも、道の駅の役割としてすごく大事だと思いますし、地域の活性化につながると思っています。

名倉高原生産組合代表理事を兼任する原田駅長。道の駅に出荷する農家としてもナスやスイカ、落花生などの農作物を納めています。

将来もお客様にあてにされる道の駅であるために

10数年後にダムができたときに、道の駅にどのような影響があるかは未知数ですが、お客様の期待に応え続けるためにも継続させたい、そのために農産物を作り続けていく。そのことだけは変わりありません。

原田さんが作った落花生と唐辛子。「この落花生、食べ始めたら止まらない」と評判です。

つぐ高原グリーンパーク 原田茂昭駅長

「キャンプ推し」の道の駅として キャンプ用品も充実

老朽化が進んでいることもあり、この道の駅は12月から約4カ月間、改修工事を行います。「費用をかけてせっかく改修するんだから、ずっと営業してくださいよ」と設楽町の人にはハッパをかけられていますし（笑）、名倉でも若い世代が農家を継いでいる例がありますから、頑張りたいですね。地場の美味しい農産物によって地元はもちろん設楽町内外を「食」の面で豊かにする道の駅として、その役割を果たしていきたいと考えています。

この道の駅の特徴はキャンプ場を併設していること。キャンプ場ができたのが平成2年で、道の駅が登録されたのが平成6年、キャンプ場の知名度を上げることが道の駅設立の目的だったとも聞いています。実際に「道の駅が近くにあると聞いたんだけど」とお客様にも聞かれることがあり、確かに認知度の向上には一役買っているようですね。

「この道の駅は味本位」と原田さん。その味には固定ファンが多く、遠く浜松からも買いに来るお客様も。

私が駅長として、道の駅とキャンプ場の管理を行って6年目になります。おかげさまでたくさんのお客様が見えて、最大で1日に400人ものご利用があることも。スタッフさんが施設をきれいに掃除したり手入れしたりしていることもあって、「いい施設だね」という声もよくいただいています。炊事場にお湯が出たり、シャワー室が備えられていたりするのも、客層として多いファミリーのお客様に人気のようです。

私たちが管理を受け持つようになってから、道の駅にキャンプ用品も取り揃えるようにしました。「キャンプ推しの道の駅」として、充実を図っていきたいですね。

ここをベースキャンプとして設楽町、さらには奥三河の観光を楽しんでほしい

将来ダムが完成したら、下流域の方たちが訪れて、交流できる施設（山村都市交流拠点施設※1）もできるでしょうか。そうしたら、ここをベースキャンプに、それらの施設と連携して観光ルートとしてつなげる仕組みが作れたらいいなと思います。設楽町内はもちろん、奥三河全体の道の駅や施設などとの連携、合同のイベントなど、可能性はいっぱい広がると思います。

そのためにも、このキャンプ場の人気を落とさないように、お客様に飽きられないようにしなければと、今でも毎日奮闘しています。施設の維持管理はもちろん、星空の観察会やキャンプフェスなどのイベントは、その工夫のひとつです。

地元の商店さんを巻き込んだ取り組みも広げていきたいですね。実際にスーパーのマルツさん※2がメンバーになっている田口カルチャー倶楽部（TCC）さんに依頼して、デザインを打ち合わせしながらTシャツを作ったり、マルツさんが精肉店を紹介してくれて、グリーンパーク用に調合したハンバーグを道の駅で販売したりしています。

ダムのある設楽町に、こんなに大きくて使いやすい施設のキャンプ場があると、将来的にもお客様に支持していただけるように、今からできることを積み重ねていきたいですね。

※1「設楽ダムだより」第144号に掲載
※2「設楽ダムだより」第142号に登場

「駅長といっても、掃除もしますし修繕もしますし、何でも屋です（笑）」と設楽町ご出身の原田駅長。

つぐ高原グリーンパークのロゴマークをバックに。スタイリッシュなロゴのデザインも、キャンプ場に人を呼び寄せます。

ロゴマークをあしらったキャンプ用品も人気。TCCさんと一緒に作ったTシャツも各種取り揃えています。

ダム情報

設楽ダム付替道路の進捗を実感する。
《4現場 日曜見学会》

設楽ダムだより前号（第144号）で滝瀬橋・大平橋会場（10月23日開催）と新設楽大橋会場・添沢橋会場（10月30日開催）の3現場で開催する見学会をご案内いたしました。今号では大名倉地区で開催する西地橋会場をご案内いたします。

開催日・時間 西地橋会場（元白鳥神社箇所北側）

令和4年11月13日（日）

10:00~14:00（最終受付13:30）

※10:00～13:30の間で、お好きな時間にお越しいただき自由に現場を見学いただけます。

当日の受付場所 会場の駐車場所付近でご案内いたします。
※事前予約不要

お伝え事項

①**雨天決行。ただし、荒天の場合は中止します。**
雨天や荒天時の開催の有無は下記の電話番号までお問い合わせください。
【専用番号　080-8602-1504】（開催日当日含む）

②凸凹のある未舗装路を歩きます。**汚れても良い服装・靴**でお越しください。
当方で工事用ヘルメットを準備しますので着用をお願いします。

お問い合わせ 設楽ダム工事事務所工事課（設楽庁舎）
TEL：0536-62-1293（平日8:30～17:15）

設楽町の魅力再発見

暑かった今年の夏もすっかりと終わりを迎え、過ごしやすい秋の季節となりました。秋といえば、読書の秋、芸術の秋といろいろありますが、私たちは「食欲の秋！！」ということで、今回は設楽町の様々なグルメをリポートします。

まずは「したらダムカレー」。設楽町特産の具材がたくさん入っており、ごろごろ野菜は美味しくて食べ応えもあり大満足！したらダムカレーは町内7店舗で販売されており、お店によって特徴が異なりますのですべて食べてみたいです。

続いては「五平餅」。設楽の五平餅はタレの種類がいくつかありますが、今回はエゴマだれの五平餅をいただきました。エゴマ独特の深みのある味ともちもち食感の組み合わせは相性抜群でやみつきになりそう！

最後に田峯の「紅茶ソフトクリーム」。田峯の紅茶を使ったソフトクリームはとてもまろやかでこくがあり、口いっぱいに紅茶が広がります！スイーツ好き、紅茶好きの方には是非一度食べてほしいです。

これから紅葉のシーズンも始まり、食も含めてたくさんの「秋」を感じることができます。皆さんも、この機会にそれぞれの秋を満喫してみてはいかがでしょうか。

デザートタイムに♪

ダムをモチーフにしていて見た目にも楽しい！

のどかな景色の中でゆったりと。

国土交通省中部地方整備局 設楽ダム工事事務所 HP https://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/

新城庁舎
〒441-1341 新城市杉山字大東57
総　務　課　TEL（0536）23-4331　FAX（0536）23-4401
用地第一課
用地第二課　TEL（0536）23-4387　FAX（0536）23-4408

設楽庁舎
〒441-2301 北設楽郡設楽町田口字川原田1-2
工　務　課　TEL（0536）62-1290
調　査　課　TEL（0536）62-1292　FAX（0536）62-1291
工　事　課　TEL（0536）62-1293